

①徳島商業高校 2年 NM

広島の平和記念式典に参加しました。暑すぎましたがとても良かったです。初めて式典に参加しました。会場の雰囲気に圧倒されました。黙とうのときのあの静けさ、子どもの誓い、平和の歌、どれもに圧倒されました。平和記念資料館、2回目でしたが、初めてのときの思いがよみがえってきたように思います。たくさんの人の生きた証が、思いが、すごく伝わってきて、途中で見れなくなります。今回もそうでした。心にジーンとくるものがありました。そして私が楽しみにしていたハチドリ舎。そこでヒバクシャの方にお話を聞きました。高村さんという方で82才。1才で被爆。爆心地から2.6kmのところで育ったそうです。初めて聞くこともたくさんありました。妹さんは体内被曝をしたそうです。このことも初めてでした。差別がひどかったそうです。特に女性に、そして証言者は一握りだとおっしゃっていました。他の問題に比べて多いのかなと思っていましたが、つらい思いをした人たちは今でも話すことの方が多いようです。やはり原爆も2世、3世がいても、当事者からというのは貴重だなと改めて感じました。お話で出てきた旧陸軍被服支廠にも一度足を運んでみたいなと思いました。すごく貴重な体験ができました!!

②城南高校 1年 OK

今日で被爆80周年となったヒロシマ…僕は初めて平和記念公園、資料館を訪れた。まず平和記念公園から、朝5時入りを4+2=6名でヒロシマに訪れた。初めは本川小学校⇒原爆の子と行った。行く最中に建物の間から見える原爆ドーム。僕はその建物に強く印象づけられ、おそらくずっと覚えているだろう。原爆の子のところでは、千羽鶴を奉納した。参加者である中学生の女の子が、某テレビ局からインタビューを受けていた。僕はその間、ある話を聞いた。「折り鶴のコーナーに若者が火をつけたことがあったこと」僕はそれを聞いたとき、怒りよりも、なぜそんなことをするのかという疑問と、あきれが出てきた。僕の写真フォルダーに、いくつかあった「被爆アオギリ」。被爆してもなお、成長し続ける木々に、なぜか感動を覚えてしまった。この「被爆アオギリ」は、なんと徳島にもあるのを知って驚きました。具体的にどこにあるのか分からぬのですが、絶対見に行きたい。他にも公園にはG7のサミット記念やIMPのアイドルたちが来ていた。そして平和記念式典が始まった。日本人よりも外国人が目立って多く見えた。原水禁の人たちやデモ活動など、あらゆる思想を持った人たちが、公園の大きいモニターに食い入るように見ていた。子ども代表の平和の誓いは、僕や多くの心をつかんでいた。ヒロシマの小学校では、調べ学習をして発表する素晴らしい人権教育だと感じた。僕は今日、ここに足を運ぶまでは、あまりヒロシマのことを知らなかった。でも今日ここに来て学んでいくうちに、僕は平和に対する気持ちや、人権について学ぼうとする意識がより一層強くなった。1945年8月6日午前8時15分、広島に原爆が投下。即死をした者や、ガラスが体中に刺さり、苦しんで逝ってしまった者。皮膚がドロドロに溶けて、もはや人間の形とは思えない姿になってしまった者…。死因が多く、死者も多い。このことを黙とうのときに考えていると、心が苦しくなった。その後は原爆ドームを訪れ、1周したぐらいにガイドさんが平和記念公園を案内してくれた。その最中に平和へのメッセージを書いてほしいという小中学生。ヒロシマは人権教育ができる場があるんだと感じた。ガイドの説明の途中にある記事が目に入った。それは、オバマ元大統領と被爆者である森重昭さんが抱き寄せてている写真だ。かつては敵であったアメリカと抱き合っている…僕はその写真を見て、僕の間違った考えを正す機会となった。「今のアメリカ人、日本人は戦争に関して何も罪を持っていない。でも語り合う必要性はある。国や民族をこえて話し合う。」という考えに行きついたのは間違いなくこの写真だ。僕たちが座っていたイスは、なんと本当のイスではなかった。じゃあ何だ?それはドームの柵内にある石と同じようなものが飛んできて、ここに置かれていたそうだ。次には旧燃料会館。今はカフェみたいになっていましたが、かつては戦争に使われていた建物だそうです。地下に続く階段はそのままに残され、ガラス張りで展示されていた。そのまま次には、ようやく本題、平和記念資料館へ…。たくさんの展示物が僕の目に飛び込んできました。8時15分の時計のモニュメント。原爆は落とされたときの熱、光、衝撃波、キノコ雲…ほぼ何もなくなってしまっていた建物たち。「ノーモアヒロシマ」という展示説

明。被害を受けた子どもと大人。僕のとった写真フォルダを見るだけでも心が締めつけられ、吐き気がした。水を求めてたどり着いて死ぬ者や、たどりつけずに死ぬ者。各方面からとられたキノコ雲の様子。金属の溶融塊。折れ曲がった鉄骨など知らないものばかりだった。実際に着ていたであろう大人や幼児の服。ガラス片が突き刺さった壁。熱風で服がなくなってしまって、裸のまま逃げる家族。大やけどをした男性。目にガラスが刺さり、治療中の男の子。皮膚がただれ落ちている学生たち…。あげだすときりがない。僕はこの時代にカラーカメラがあったら、間違いなく吐いていた。途中から気分が悪くなり、気持ちがこみあげてくるなど、様々な不運におそわれた。ここで気分を変えるためにも、昼食の話をしようと思う。平和記念公園をちょっと行ったところにあるお好み焼き屋。雰囲気はとっても良く、外国人も多くいた。とつってもお好み焼きがおいしかった。また行きたいぐらいだ。

③徳島商業高校2年 NM(第2弾)

1945年8月6日午前8時15分と聞いて皆さんは何を表しているのかわかるだろうか。多くの人が広島原爆の日と答えるだろう。そうだ。広島に原爆が投下された日だ。皆さんはこのことについて知っていることがあるだろうか。そして何を思うのだろうか。私は、T-o ver人権子ども塾の塾生・クルー6名で広島平和記念式典に参加してきた。

あの日から80年後の2025年8月6日午前8時15分、現地広島で黙とうをした。80年前そこでは壮絶でなんとも言葉にならない光景が広がっていたと思うと心が締め付けられる思いだ。あの式典に参列していた、平和公園内にいた皆が8時15分になると一気に静まり、被害に遭われた方々に、そして恒久平和への思いを寄せる。そんな雰囲気を目の当たりにできたこと、節目の式典に参列できたこと、すごく光栄に思う。

私は、1度広島を訪れたことがある。それは中学生の時の修学旅行だった。平和公園を散策したり、平和記念資料館で展示をみたり、当事者の方からお話を聞かせていただく機会もあった。だから資料館や平和公園へ足を踏み入れたのは二回目になる。だが、平和記念式典には初めて参列することになった。一度はあの雰囲気を味わってみたいと思っていたが、こんなにも早く叶うとは思っていなかった。そして、初めて聞いた事、見た事、体験したことがたくさんあった。

始めは千羽鶴を奉納したこと。原爆の子の像は訪れたことがあるが、千羽鶴を奉納したことにはなかった。人権子ども塾の塾生らで制作した約3000羽を奉納することが出来た。像のところには日本、いや世界中からたくさん鶴が奉納されていた。だが、そんな千羽鶴に放火をする人がいると子ども塾の先生やニュースで見たり聞いたりしたことがある。世界や日本各地から思いを寄せて奉納されている大切ななものに放火をするという行為はとても許されることでは無いと思った。そして、平和公園内の雰囲気も普段とは全然違うかった。修学旅行で訪れた際も、修学旅行生やそれ以外の方もたくさん訪れていた。たが、それを遙かに上回る人々が、暑い中公園内のモニターを食い入るように見ていたり、一つ一つの言葉に必死に耳を傾けていた。式典が始まる前にはデモ活動などが行われていたため、がやがやとしていたが、式典が始まるとすごく静かで厳粛に執り行われた。そこには日本人だけでなくたくさんの国籍の方がいた。小さい子からお年寄りまで幅広い年代の人が参列していた。式典になるとここまで雰囲気が一変してしまうのかと肌で感じる事が出来た。

そして、ヒバク当事者である方にお話を聞く機会があった。そこで初めて耳にすることがこの日1番私の中で1番響いたことだった。あった。私は、たくさんの人権学習をしてきた中で、ハンセン病問題などは体験談などが当事者からしか聞けないから高齢化のため聞くことができなくなる日が来るから若者が聞いて後世に語り継いでいく必要があると考えているのだが、原爆のことについてはヒバク2世、3世が現れている中で、その方たちが語り継いでくれるからいつでも聞けると考えていた。だが、ヒバクをされた当事者の方の中には辛かった過去だから話したくないという人も多いそうだ。80年をすぎ、90歳前後となっている今、かなり人数も減っているそうだ。証言をしてくれる人はほんのひと握りだと当事者の方が仰っていた。そんな中のひと握りということはすごく少ないのだろうと思った。私ははっとした。すごく甘く考えていたのだと。2世や3世の方からでも話を伺うこと

は可能だが、なによりどの人権問題も当事者の方からお話を聞くことは大切なのだと思った。だからこの世に当事者がいなくなるその日まで、証言してくれる方を訪れ、対話をすることはとても大事なことでもあり、貴重なことでもあると思った。

この一日でここに書ききれないくらいのことを現地で肌で感じて学ぶことが出来た。それは私たちを連れていってくれた子ども塾のクルーの方々、そして保護者のおかげだ。人権学習は、たくさんの人との出会いで成立する。たくさんの人と語り合い、たくさんの意見や思い、考えに真剣に耳を傾け、自分もマイクを握ることだ。最初は緊張するが、そこを超えると心に斯っと入ってくる。皆と分かり合える。人権問題が身近に感じる。経験は1番の財産になる。他人事から自分事へ。人として、人の権利について学ぶこと、誰もが平等にある権利が脅かされる問題、過去のことでも知ろうとしないこと、放っておくことそれは恥だ。1945年8月6日午前8時15分この出来事を忘れるることは出来ないだろう。平和な世の中を築いていくため、たくさんの人権問題を学び、深め続けていきたい。